

平成 25 年 1 月 22 日



報道関係者様各位

## 産学官が集結する日本初のアイデンティティサミット ～Japan Identity & Cloud Summit (JICS2013)開催～

国立情報学研究所（所長：坂内正夫、以下 NII）と一般社団法人 OpenID ファウンデーション・ジャパン（代表理事：八木晃二）は、3 月 4 日（月）～5 日（火）の 2 日間、日本初のアイデンティティサミット「Japan Identity & Cloud Summit(JICS2013)」を開催いたします。

本サミットは、NII が中心となって国内の大学・研究機関に対し運用している「学認」と、民間のウェブサービス等で広く活用されている「OpenID」がそれぞれの取り組みにおいて蓄積してきたノウハウや知識の共有を図り、両者の連携が研究者や学生、一般のインターネットユーザにとって、安心・安全・便利な認証基盤を整備していくことを目的に開催いたします。

国内外における ID 管理・連携の関係者が産学官の垣根を越え一堂に会する場としては国内最大級であり、また、学術分野と民間との ID 連携に着目している点で画期的な試みです。

皆様のご来場を心よりお待ちしております。

### 趣旨

米国や欧州においては個々の大学の枠を超えた ID 認証連携が普及しており、研究者や学生が大学間での共同研究・単位互換、あるいは電子ジャーナルや商用クラウド等の民間サービスをキャンパス外から安全・安心に利用する環境整備が進んでいます。

日本では、NII が中心となって平成 22 年度から国内の学術機関の認証連携を実現する「学認」を本格的に開始し、約 50 の大学・研究機関等と約 100 のサービス提供者が参加するに至っているものの、全国の研究者や学生が認証連携の利便性を享受するには、さらに広く高等教育機関等や民間サービスへ、ID 管理・連携の浸透を図る必要があります。

学術認証の最新動向やケーススタディを含め、産学官や国内外の ID 管理の技術やポリシーについて議論を深めると共に、分野を越えた情報交換の場を設けることで、日本における ID 連携の研究・開発・運用のレベルを向上させることを目的としております。

【名称】 Japan Identity & Cloud Summit(JICS2013)

【日時】 平成 25 年 3 月 4 日（月）～5 日（火）10:00-18:00

【会場】 学術総合センター 一橋講堂他

〒101-8430 東京都千代田区一ツ橋 2-1-2

最寄駅：東京メトロ半蔵門線、都営地下鉄三田線、

都営地下鉄新宿線「神保町駅」A8 出口

東京メトロ東西線「竹橋駅」1b 出口

【参加費】 無料（情報交換会は別途参加費必要）

URL:<http://jics.nii.ac.jp/>

※ 上記ウェブサイトより参加申込を受け付けます。





— 記 —

- イベント名 : Japan Identity & Cloud Summit 2013 (略称 : JICS2013)
- 日時 : 2013年3月4日(月)~5日(火) 10:00-18:00
- 会場 : 学術総合センター内 一橋講堂及び会議室 (東京都千代田区一ツ橋 2-1-2)
- 主催 : 国立情報学研究所  
一般社団法人 OpenID ファウンデーション・ジャパン
- 協賛 : Ping Identity Corporation  
ノーサレンダー株式会社
- 後援 (予定) : 総務省 / 文部科学省
- 参加費 : 無料 (但し、情報交換会は別途参加費必要)
- 来場者数 : 1,000名 (予定)
- 公式サイト : <http://jics.nii.ac.jp/>

## 「Japan Identity & Cloud Summit 2013」で予定される講演者(一部)



**谷脇 康彦**  
総務省大臣官房審議官  
(情報流通行政担当)



**中村 素典**  
国立情報学研究所  
特任教授



**崎村 夏彦**  
OpenID Foundation,  
Chairman



**Don Thibeau**  
Open Identity Exchange,  
Chairman

## 学認関連用語

### 1 学術認証フェデレーション (学認) :

学術認証フェデレーションとは、学術向けのコンテンツや情報サービスを利用する大学などと、それらを提供する機関（出版社、通信事業者、大学など）から構成され、各機関はフェデレーションが定めた規程（ポリシー）を信頼しあうことで、相互に認証連携を行うことができます。認証連携を実現することで、大学が発行する1つのID・パスワードをそのまま利用して、他大学や商用のサービスが利用できます。このとき、そのIDやパスワードがサービス提供者に知られることはありません。また、シングルサインオン技術を用いているため、複数のサービスを連続して利用する場合には、2回目以降のID・パスワードの再入力の必要もありません。例えば、他大学の無線LANをいつも大学で使用しているIDとパスワードで利用することができ、かつ自大学が契約している電子ジャーナルヘシームレスにアクセスすることも可能になります。学術認証フェデレーションの詳細な利点は、以下のURLを参照ください。

<http://www.gakunin.jp/>

### 2 学術認証フェデレーション「学認」と「OpenID」

各国の学術認証フェデレーションでは、共通の認証方法として、SAML (Security Assertion Markup Language) と呼ばれる標準を採用しています。一方、商用サービスで多く使われているのがOpenIDと呼ばれる標準です。現在、学認とOpenIDの相互の活性化を目的に、認証の方式を超えたID連携のためのトラストフレームワーク\*の構築が世界的にもホットなトピックとなっています。

学認側、NII、東京大学、京都大学とOpenID側、野村総合研究所では、総務省「平成24年度戦略的国際連携型研究開発推進事業」にて採択された研究において、プライバシー保護に視点を置いた、相互ID連携のための技術的な問題解決に取り組んでいます。

### 3. トラストフレームワーク :

トラストフレームワークとは、利用者に関するさまざまな情報を利用者本人の同意に基づき、事業者間で安全に流通させるための、ガバナンス／プライバシー／テクノロジーを包括する枠組みです。トラストフレームワーク・プロバイダーが、あらかじめ策定されたポリシーにのっとり、参加する企業を認定することで、サイバー空間をより安全で信頼可能なものにします。米国政府の国民ID戦略の中で採用されただけでなく、米国以外の政府や、ISOやITU-Tなどの国際標準化団体、世界経済フォーラム（ダボス会議）などでもプロジェクト化され、普及に向けた国際協調や制度的／技術的相互運用性について議論されています。

---

## <<報道に関する問い合わせ先>>

国立情報学研究所 総務部企画課 広報チーム (坂内)

〒101-8430 東京都千代田区一ツ橋 2-1-2

TEL : 03-4212-2164 E-mail : [bannai@nii.ac.jp](mailto:bannai@nii.ac.jp)